

# 第1回 清水都心ウォーターフロント活性化検討委員会

## 議事録

日時：平成24年10月3日（水）15：30～17：30

場所：静岡商工会議所清水事務所5階会議室

### ■委員長挨拶

[横内委員長]

清水港で港を活かしたまちづくり、にぎわいづくりをしていこうということで微力ながら手伝いたい。みなととまちをつなぐというのは、言うのは簡単だが、法律も違うし、行政も分かれておりとても難しい。これはこれで非常に効率的であったという時代もあった。日本もこうして発展してきた経緯がある。しかし、コンテナの登場により、どんどん船舶の大型化が進み大水深のバースが必要になり、港湾機能の移転が起き、これまでの旧港地区では対応できない中で、そのあとの未利用地や遊休地をどうやって魅力的な地区に変えていくかということが各地の港で行われているわけである。どのまちでも、港は町の発展の原点になっている。清水もこの例にもれない。まちの一等地に港がある、その港が様変わりしてきた。その跡地をどうするか。一方で、中心市街地がなかなか難しいなかで、相互作用でみなとを活かしていくしかないというのがこの会議の狙いである。海をみせればそれで人が来るというわけではない。当然、魅力的な空間をつくらないと難しい。みなさんの意見をもらいながら、どういう方針で清水港のみなとまちづくりを考えていけばよいか、しっかり議論したい。今日のメンバー構成を見ても、いわゆる学識経験者という役に立たない大学の先生は自分だけで、あとは、地元の経済界、産業界、行政、とこれを見ても本気度が伝わってくる。忌憚ない意見をいただきたい。議論は楽しくないとおもしろくないので、どうやってにぎわいを持たせていくのかということで、楽しくまじりやりたいと思うので、ぎっくばらんな意見をいただきたいと思う。事務局がしっかりまとめるとおもうので、たくさん意見を出してもらいたい。初回なので、全員から1回は発言を求めたいと思う。活発な意見をおねがいしたい。今年度は方向付けをして、来年度から何か具体的に展開できることをしたいという事務局の意向もあるので、よろしくお願ひします。

### ■検討資料の説明（省略）

### ■意見交換会

[横内委員長] 各委員から意見をいただきたいが、質問、わからない、などという部分があれば。

[新聞委員] この資料は何に基づいてつくられたのか。かなりまとまっているように見えるが。決まっていることなのか決まっていないことなのか。

[今川主査] 現地調査、来訪者へのアンケート、関係企業へのヒアリングから課題を整理し、他都市事例等を参考にして、たたき台としてお示ししている。固まったものではなく議論の材料としてお示ししているものである。

[松城委員] 江尻地区については、動線について問題点が多くこれではいけないと思う。方針についても地元の考えと違っているところがあり個人的には回答出来ない。たたき台と言うことならば、出来ないなら出来ないと意見をしてもよいのか。

[今川主査] その通りである。持ち帰って頂いて、アンケートという形で回答して頂き、今後やり取りをもってご教授頂きたい。

[梅原委員] AP推進計画への反映ということだが、短期・中期・長期と30年くらいのスパンで構想を検討している。この検討のアウトプットは、時間軸はどの程度のレベルを考えているのか。

[村松課長] 具体的に取り組む内容により異なってくると思う。すぐに出来るものとして短期のものも入っている。港湾計画とからんでくるものもあると思うのでそういうものは中長期のものになる。流動的に考えている。

[梅原委員] 都市行政と港湾行政の円滑な、という耳の痛い話もいただいたが。この成果が、港湾行政だけではなく、都市行政と重層的にやるということだと思うので、港湾計画だけではなく、都市行政の計画に対しても反映されていくということによいか。

[向達課長] 都市部局も事務局に参画し、対応していきたいと考えている。また、臨港地区においても港湾法を踏まえながら都市的誘導を進めていきたいと考えている。

[山崎局長] 長い説明だったが、こんなに細かいところまで、この3回の委員会で見ていくことが出来るのか。大変不安である。ここに書いてあることが全部できればそれはよいが、すべてをやりきれぬのか。もう少しビジョンとして大きな方向性を議論するのでないと、これを詰めていたらまとまらないのではないのか。

また、中心市街地との軸をつくるべきとのことだったが、本当にその必要があるのか。中心市街地に魅力がないからつながらないのであって、魅力があればそもそも自然とつながっていくのではないのか。今の段階でこうゆうのが足りない、足りないから人が来ないと結

論づけるのは早すぎるのではないか。

現状で使われているところを無視して絵ばかり書いていくとどこかで困るのではないか。

あまり風呂敷を広げすぎると難しいのではないか。

[今川主査] 今回材料としてはいろんな主体の関わりの可能性を知りたいという意図で、沢山細かく示したところがある。どうゆうふうに出しとめていくかは、今後やり取りする中で考えたい。中心市街地については中心市街地活性化協議会等で検討しているので、両方で足りないところを補いながら前向きにやっていきたいと考えている。

[熱川委員] 中心市街地の話があったが、清水の中心市街地の活性化の基本は、JR 清水駅中心の活性化、日の出地区ドリームプラザ中心の活性化、その二つをどうつなげていくかが大きな課題。だから、この問題も中心市街地なしに語れないのではないか。現在清水がもっているポテンシャルとして、港、ちびまるこを取り上げている。イメージとしては、ゲゲゲの鬼太郎の境港をみてきたが、うらびれた港が、取り組んだ結果、成果が出ている。日の出地区などもそういうポテンシャルがある。石積み倉庫など活用しながらちびまるこロードなど計画に盛り込んでもらえればと思う。

[大井委員] いろんな場面でドリプラを出していただく。日の出と江尻、中心市街地を結びつけるのはありがたいし、中心市街地のために推進してもらいたい。ドリプラ独自に、市内3区の住民に対してアンケートを取った中で、日の出地区に来るには何で来るのかの問いに、自家用車が9割。清水区の人ですら自家用車でくる。日の出地区に行けない理由は、交通の便が悪い、という結果が顕著に出ている。あのエリアに行こうと思っても、いけないということがうきぼりになってきている。水辺をうまく使った交通、スポット、駅、自転車とか整備・告知していったほうがいい。

[横内委員長] まさしくアクセシビリティが問題ということ。多様な交通体系を準備するべきではないかということ。

[林田委員] 質問というか確認。まず、活性化の対象は、市民なのか、県民なのか、世界なのか。地元市民が集まらないところに、外からも人が来ないので、最終的には地元市民となると思う。全部できれば素晴らしいが、予算的には難しい。ハードができてソフトができなければ難しい。他との比較などもある。清水港のウォーターフロントが魅力を増せば人が集中するだろうが、やはり中心市街地との関係も重要である。立地条件や周辺との関係などから、どこの分野に集中して投資をしていくべきなのかという目的も大切。ハードだけでなく、ソフトが大事ということもある。地元を狙ってやっていったほうがいいということもある。

〔横内委員長〕 大事な指摘。これからは富士山目当てで外からのポテンシャルということもあるかもしれない。しかし、地元が興味ないウォーターフロントであればそこは大問題である。まず静岡市民にリピーターとして来てもらい、さらに磨き上げるということが必要だろう。

〔林田委員〕 まず、七夕祭りからもっと全国にPRしたほうがいいと思っている。世界を目当てにするとちびまるこちゃんも可能性がある。アジアに対してキラコンテツである。県の事業で台湾に就航する国際便でちびまるこラッピングバスをやったら大人気で地元マスコミにも大変取り上げられた。さくらももこから直接許可を取ると非常に高くつくので、ドリプラと連携しドリプラの宣伝としてちびまるこちゃんを出すという形で実施した。そういったコンテツをつかい、清水港を拠点として人を集める。市民を対象としながら世界を狙う、ということもあるかもしれない。

〔竹田委員〕 資料を見て壮大な計画だなと思った。魅力づくりは、ここにしかないと来ないようなもの、みなととしての特徴ある魅力が出せないと、と思う。交通事業者の立場からすると、活性化とかにぎわいということ、数値目標があると分かりやすいが、どの辺に目標を持っているのか、というのが気になる。これくらいの集客を見込むので、それだけの人を運ぶのにどれくらいの輸送力が必要かという順序で考える。何台走らせるから、これくらい来てほしいではない。水上交通も魅力的。また、そもそも清水駅まで、どこから人が来るかということも問題。

〔横内委員〕 水上交通はうまくやればかなり面白い手段となる。静岡市で考えると、旧静岡と清水が同じ顔になっては、清水は苦しい。清水は静岡にない姿をつくる必要がある。これは港しかない。そのためには、どういう手段でくるかも含めて考えて頂きたい。

〔斉藤委員〕 日の出地区の施設の指定管理者をしている。県の施設については、清水駅を起点として一番遠い日の出マリンパークとマリンターミナルなどを担当し、6年間にぎわいづくりをやるために苦戦している。富士山が見え、こんないい場所で、と言われるが、それだけでは人は来てくれない。アクセスの問題がありどうやって来てもらうかが大事。また、この資料に出ているものは、計画としてはすばらしいが、すぐできるものがあるかということ、いずれもいろんな主体の利害が関わってくるため時間もかかるだろう。そういった中で、すぐできることをやってほしい。前から思っていることだが、河岸の市から日の出地区まで行く遊歩道を先に手を付けてはどうか。すでにある施設に手を付けるためそんなに金もかからない。商工会議所の女性会から、花を植えてほしいといわれる。それがあれば女性が来るし、自分たちが手入れをすると言っている。すぐできることが大事。

[横内委員長] あれは市の道路だからやりやすい。うまく動けばインパクトは出てくるかもしれない。ご指摘のように、短中長、また長長の仕分けをしていったほうがいいかもしれない。今はとにかく全部入れてみたということだが、次回提案して頂きたい。

[斉藤委員] 駐車場も、足りないという話があったが、一方で、満車になった日は少ない。容量は余っている。駐車場があるけど無料がないとか、入りにくいとか、そういう不満があるのではないか。

[新聞委員] 物流の立場から。冒頭先生がおっしゃったように、物流と賑わいのすみわけが問題。物流は興津に移って行っているが、コンテナからそのまま内陸に入れたいので、倉庫は内陸に行くだろう。そうすると、清水はもともと輸出中心だが、これから輸入中心になっていくところと認識しており、官民で企業誘致をしている。そういうときに、日の出地区についてみると、これからどうするんだという大きな構想を描いて、短中長の順序を付けていくことが大事ではないか。また、もともと物流中心の地区なので、港湾道路がにぎわいを生み出す阻害要因になっている。道路をどうするかというのは大きな問題。港湾道路が混雑している。どういう形にするかが重要である。プサンはあたらしい港で賑わいと物流をしっかり分けている。細かいところもやればいいが、大きな構想も描いていかないといけない。物流もみせることはできる。輸入になっていくと、船が入ってにぎわうとか。まずは物流と賑わいをきっちりわけていくことが重要である。

[横内委員長] 本物の物流機能があるから魅力になる。それを見せられないとただの水辺であり港ではない。経済的には集約化も進める必要がある。あんばいが大事である。

[宮城島委員] 清水漁協組合長と魚市場社長をやっている。魚市場の建て替えが今年4月にあり、食の安全からいくと、今までの市場では通用せず、一定の温度管理などを備え、競りができるようにした。一般市民にも見学できるように作り、東京からの修学旅行などでにぎわってきている。13日にまぐろ館をオープンする。食の店舗が16店舗入る。河岸の市は年間100万人くらい、自家用車だと27万台くらい来ていて、まぐろ館オープン後の駐車場に頭を痛めている。現在は、市場で買った人やレストランを利用した人はチケットを渡し料金がかからないようにしているが、駐車場を新たにつくって料金を取るとどうなるか。河岸の市の統計を取ると、地元の静岡が多いが、山梨や長野からも自家用車で相当来ている。中部横断道ができると、さらに人が来ると期待している。駅からマリナートへきているデッキを港湾道路をまたいで河岸の市へおろしてほしいと思っている。回遊の面でもそれをやってほしい。早急にやってもらいたいと思っている。江尻地区は津波がきても逃げ場がなく、津波避難対策も兼ねて考えてほしい。

[山崎委員] 臨港道路をまたぐのは難しい。

[松城委員] 先ほど失礼なことを言ったが、河岸の市のような取り組みをさらに進めてもらい、江尻地区はまぐろの魚食促進ということでよいと思う。ただし、問題は、共存共栄という部分。出荷や入荷を江尻でほとんどやっているのだから、観光客が入ってくると、観光と物流の入出荷の事故の問題とか、進入者の問題などが心配である。その観点で行くと、この絵のままだとあまりに問題がある。県警を含めた交通の問題などがある。持ち帰って、全体的な問題としてこの地区に携わっている人と相談したいと思ったところである。

[横内委員長] 安全の問題は第一なので大事だ。一方で、せりの風景を見せたり、本物の作業を見せたり、そういうことはやってほしい。

[松代委員] 魚が売れてはじめてわれわれも潤うし、よいことだとおもう。

[白崎委員] 代理出席なのですが。まず、活性化という言葉についてだが、現状で活性化していないという印象を受けるが、それぞれの部分はそれぞれ活性化しているのではないかというのが、自分の認識。河岸の市は年間 100 万人も訪れ、休日には入りきれない車がある。そういう状況でアンケートを見ると、この結果は偏りもあるのではないか。河岸の市で来た 100 人中 19 人が河岸の市とドリプラを行き来しているということは、年間 19 万人が行き来しているということ。しかし、そんなに遊歩道を歩いている人は見ないため、ほとんどが車で行き来しているんだろうと推測される。現状をしっかりと把握して、問題を整理しないと、これだけで施設間の行き来が少ないと判断すると読み間違えるのではないかと思っている。港湾事務所では、県内外の小学校の受け入れをしているが、たくさん来ている。今年は既に 800 人と増えている。来る学校に聞くと、清水港は見学する場所が多いという評価。周辺との組み合わせもいろいろでき、魚市場の競りや三保の水族館、お茶詰みなどいろんな体験ができる。これをみると、そうゆう勢いのあるところが記されてなく、自分の実感と違う。ドリプラも入船通りができて増えたのではないかと思っている。駐車場も案内の問題があると思う。現状をつぶさにみていくと、すぐできる改善策もでてくるのではないかと思う。

[横内委員長] にぎわいに偏りはあるのだと思う。活性化というのは何を活性化させたいのかが確かに重要。

[熱川委員] ずっと静岡にいと、清水の栄枯盛衰を見ている。だから何とかしたいと考えている。現状だけ見るとちがうのではないか。

〔山崎委員〕 お願いしたいのは、活性化検討委員会はどういうところを検討するのかを整理していただきたい。これまで、日の出地区では物流中心に臨港地区をかけている。徐々にコンテナ化されて、港の機能も動いており、空き始めている。そこをどうしていくのをどうしていけばいいのか。将来ビジョンをもって大きなことをやっていくのか、ソーラスを改善していくとか、個別問題を撃破していくのか、ということ。どちらなのか。ウォーターフロントを活性化していくのに、今までどういった問題があって、それをどう解決していきますという大きな話であれば議論がうまく進むのではないか。事務局の考えを整理して欲しい。

〔梅原委員〕 冒頭、港湾行政と都市行政がばらばらだったということだが、清水の日の出の再開発のやり方は全国の先駆けになった。ウォーターフロントをどう捉えるかという中で、中心市街地の中にウォーターフロントが含まれるという考え方で行くべきではないか。日の出地区は過去に再開発をやってきたが、ドリプラの横にまだ古い倉庫が残っていて、正直は完成していないところがある。そのころの計画が完成すれば、ここに書いてある課題はだいたい解決するのではないか。

江尻地区に手がつけられなかったのは、石油タンクの安全性などの規制が何等かあった。過去の開発が進まなかった理由が石油タンクにあるのであれば、今後、このタンクをどうしていくのか考えなければいけない。市民の憩いの場にするには問題がある。また、津波対策についても考えていかなければならない。来年6月に第4次被害想定が出される。これを受けて安全確保についても課題としてあげる必要がある。

〔渡辺委員〕 こういう資料を出したが、方向性を一致していくことが大事だと思うので、市民、地権者の声を聞きながら方向性をまとめていきたい。ハード・ソフトの整理、短中長の時間軸の問題も整理していく。河岸の市は100万人、ドリプラは300万人も来訪者がいるが、そこに寄って帰る人がほとんどで滞在時間がない。観光交流人口の拡大ということをして市のメニューとしても掲げている中で、滞在時間の拡大を図るため、江尻地区と日の出地区の回遊性の向上が重要になる。1km程ある清水港線跡遊歩道の改善に、みなさんの方向性が一致すれば、短期的なメニューとして、そこから取り組んでいけるかと思う。

〔増田委員〕 細かいところを説明したが、また整理していく必要がある。都市計画部としては、港湾担当部局とも連携して、取り組んでいきたい。

## ■意見交換総括

〔横内委員長〕 一時間では話しきれない。今日の時点としては問題は出尽くした。次回に向けて考えなければいけないこと、「活性化」とはどう具体にとらえるか。誰を対象にし

ていくのか。自分はシンプルに「活性化」とは「人が集まること」と思っている。収益を上げることよりも、まずたくさんの人が集まることになれば、なんらかの経済活動が発生する。人があつまることを考えることが重要である。例えば、一番良い場所をものすごく安く貸し出すということもあるかもしれない。もう一度「活性化」を定義して頂きたい。次に、提案の短中長の時間軸を整理すること。たまつきに出来ることもある。はじめの一步が非常に重要である。まずできるところからやってみる。やってみないと分からないこともたくさんある。十分にリサーチをかけることも必要であるが、経済界、産業界の皆さんが立ち上がらないと活性化は難しい。行政で出来る範囲は限られており、官民連携でやっていくしかない。清水は現在苦しいところだと思う。自分の学生に次郎長を聞いたら知らないよというところ。河岸の市もドリプラも 100 万人単位で来ている一方で、中心市街地はシャッターが目立ち、偏りがある。これをどう回遊分散させていくか。線路跡地かもしれないし、ブランドかもしれない。清水ブランドを評価し、育てていけば活性化につながっていくのではないか。

#### ■その他

[池田統括主幹]

次回日程は12月17日の週で、18日（火）か21日（金）で考えている。

以上